



小橋敏弘の ニッポン大好き! Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.30 衝撃ニュース

イギリスの刑務所の受刑者を早期釈放



Camnet
読者の皆さん、日本の酷暑の夏、いかが乗り越えられましたか。毎年のように近年まれにとか歴史的な猛暑、豪雨、地震など恐ろしいニュースが次から次へと耳にしますが、どう

なんでしょうね? 自然界に対してめちゃやってきたつけが人間へ回ってきているんじゃないでしょうか。それとも神様からの罰なんじゃないでしょうか。読者の皆さんはどう思われますか。

さて、今日10月4日の数日前にイギリスのBBCから流れてきたBreaking Newsです。なんとイギリスの刑務所が寿命詰状態。受刑者が刑務所の許容量をはるかに超え、刑の軽い囚人から刑期満期をまたず釈放をせざるを得ない状況になっているという驚愕のニュースが飛び込んで来ました。以下の文面がその報道の一部です。

英国イングランドおよびウェールズでは、刑務所の過密状態を緩和するため、新たな早期釈放制度の下で数百人の受刑者が本日10月2日に釈放されています。

この制度では、刑期が19か月以下の受刑者は、刑期の3分の1を終えた段階で釈放対象となります。

ロンドンのワンズワース刑務所では収容人数が限界を超えており、「ネズミでさえ文句を言うほどの過密状態」と表現する人もいました。というイギリス人独特のユーモア溢れるコメントも付け加えられていました。



そこで筆者はさっそくスイスでは、日本ではどうか調べてみたところ、ここにも驚きの事実がありました。

まずスイス連邦統計局によると、2026年1月31日時点で全国の刑務所には、7,119人が収容されています。刑務所の定員は7,373人分です。全国平均の収容率は96.6%に達しています。一見、安全な国スイスのイメージとは裏腹に、刑務所の収容率がなんとほぼ100パーセントに近いとは驚きでした。人口900万人の超小国スイスに7000人以上の囚人が服役している事にも驚愕しますね。

さて日本ですが、受刑者数と収容状況と言え、2025年半ばの日本の刑務所人口は約41,232人です。人口10万人当たりでは33人で、G7諸国の中でも低い水準のようです。たとえば公式収容定員は85,029人、収容率は47.3%とされています。つまり全国平均では定員の半分程度しか使用されているんですね。やはり安全な国日本を証明できる数値です。世界から日本に観光で行きたがるのが理解できますね。筆者のスイス人の友達もここ数年日本へ観光へ行った人が増えましたし、これから行きたい国はと言うと日本と言う人が多いのも事実のようです。

さて刑務所の受刑者の話にもありますが、なんと日本では受刑者の高齢化が進んでいるという話も特記されていました。笑ってはいけないのですが、つい笑ってしまいました。



受刑者総数は減っている一方で、高齢受刑者の割合が増加しています。刑務所では介護や医療の負担が大きくなっており、「空気が多いか



ら安心」という状況ではありません。刑務官が高齢受刑者の介助を行うケースも知られています。刑務所の老人ホーム化が知らぬうちに進んでいたようです。また別の意味での高齢化社会が刑務所にも蔓延しているようです。

今日はちょっと変わった視点から、日本とイギリス、スイスの社会を比較してみました。

profire 小橋敏弘

年齢、もうすぐ70歳。

1975年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活を、64歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫6人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持

ち、最近ではChat GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ10年ほど毎週一回ぐらゐのペースでやっておりますCountry Line Danceです。